

7▶ 地域ニーズ即応型 (平成20年度開始、平成22年度終了予定)

1 概要

地域ニーズ即応型は地域の中堅・中小企業のニーズ(技術的課題)に対し大学・公設試験研究機関(以下、公設試)・高等専門学校(以下、高専)等のシーズを活用した研究開発を支援することにより、企業の持つ課題に対して即効性のあるソリューションの提供を行い、事業化を実現することで、地域の産学の活性化を目指す制度である。

本制度は企業ニーズに対し、大学・公設試・高専等のシーズをマッチングさせて課題を解決することに主眼を置いたニーズ・オリエンテッド型の研究開発支援であり、公設試や大学・高専等のコーディネート機能およびシーズを積極的に活用するものである。そのため、地域の企業のニーズを把握している公設試等の調整役機関と企業とが連名で応募することとし、JSTは研究開発を実施する機関ごとと委託研究契約を締結する方式を採用している。

本制度では企業、公設試、大学・高専等との共同による試験研究(1~2年度)の実施に対し、研究開発資金(1課題当たり200万~500万円程度/年度)を支援する。

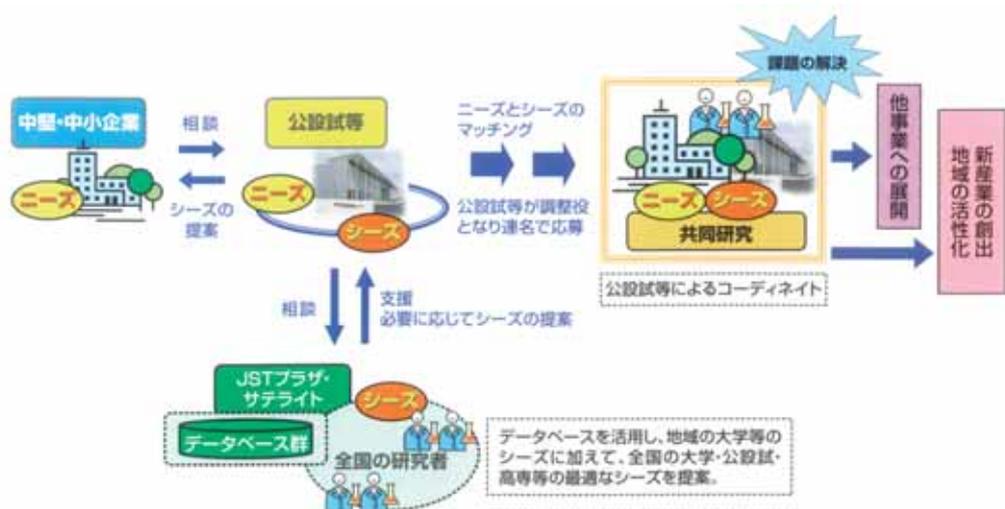
課題の選考は、イノベーションプラザ・サテライトの館長をプログラム・オフィサーに任命し、プラザ・サテライトごとに公募を行い、また企業のニーズが解決されるよう、プラザ・サテライトの科学技術コーディネータ等が必要に応じて助言等を行うこととしている。

本制度は平成20

年度に新設され、第1期の公募では全国から503課題の応募があり、109課題を採択した。応募件数が多く、反響が大きかったことから同年度に第2期の公募を行い、全国から375課題の応募があり、121課題を採択した。また、平成21年度は公募を平成20年度に比べて約3カ月早く開始し、採択決定後の研究期間をより長くするよう改善し、466件の応募に対し104件の採択を行った。本制度は発足後334課題を採択し、平成21年度の採択をもって新規募集を終了している。なお、この2年度とも応募分野としては、ものづくり技術とライフサイエンスが多く、この分野における企業ニーズの高さが表れていると考えられる。

2 果たしてきた役割

平成20年度に終了した課題(計55課題)における、企業の技術的課題の解決度および企業化の期待度に対する事後評価の結果、特筆すべき成果が認められ企業の持つ課題が解決された課題は24%(13課題)であり、技術的課題を抱える地域の中堅・中小企業への解決策の提供、地域のニーズを把握している公設試の活性化の点で大いに貢献した。

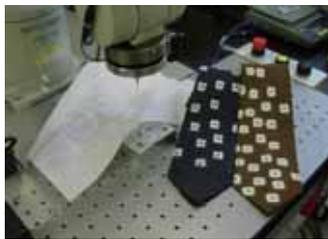


伝統工芸「絞り」におけるくくり作業のロボット化

プラザ東海

調整役機関	愛知県産業技術研究所
参画機関	大同大学、(有)名南機会製作所、(有)近清商店、愛知県産業技術研究所
課題名	伝統工芸「絞り」における括り作業のロボットによる自動化
研究期間	平成21、22年度

愛知県の伝統産業であり、手作業でしかできなかった「絞り」のくくり作業を自動化する技術を開発し、両端で異なる内径の絞り具を考案、くくり作業のロボット化を可能とし、装置を試作した。



絞り具装着自動装置

高精度インプロセス計測機能付ロボットチャックの開発

サテライト静岡

調整役機関	長野県工業技術総合センター
参画機関	長野県工業技術総合センター、(株)小林製作所
課題名	高精度インプロセス計測機能付ロボットチャックの開発
研究期間	平成20年度

インプロセス計測のローコスト化を目的に計測機能付チャック試作機を作成し、実際の測定精度試験、改良が進む環境が整えられた。これにより、加工した精密部品の搬送と寸法の計測が同時にできるようになり、また、導入コストが従来の数分の一になった。



計測機能付ロボットチャック試作機

パルス電界を用いたきのこの増産

サテライト岩手

調整役機関	(財)いわて産業振興センター
参画機関	(株)長根商店、岩手大学
課題名	パルス電界を用いたきのこの増産
研究期間	平成20、21年度

企業と共同でフィールドにおいて、きのこのホダ木にパルス電圧を印加することで、腐生性のきのこの増産を実証した。また野外用高電圧パルス電源を開発し、アマタケなどの菌根性のきのこのへの応用可能性にも目処をつけた。これにより市場価値の高いきのこの生産性向上が見込まれる。



パルス電圧印加のきのこ
上部：電圧印加なし、下部：50kV、50回印加

宮崎マンゴーラガーの開発・製品化

サテライト宮崎

調整役機関	宮崎県食品開発センター
参画機関	宮崎県食品開発センター、(株)ニシダ(現：宮崎ひでじビール(株))、宮崎大学
課題名	宮崎県ブランドビールの開発・製品化
研究期間	平成21年度

宮崎の特産品であるマンゴー果皮から採取した酵母を独自技術により培養し、従来のビール酵母とのダブル発酵によりビール業界でも極めてまれな手法でビール(酒税法上は発泡酒)を開発し、発売した。



宮崎マンゴーラガー【宮崎ひでじビール(株)】

※以下の成果事例は「3. イノベーションプラザ・イノベーションサテライト」に掲載。

- ・デジタル土壌養分分析システムの開発 サテライト岩手 ▶▶▶ 65ページ
- ・全方向移動型歩行訓練機の開発「歩助王(ほじょきんぐ)」 サテライト高知 ▶▶▶ 77ページ